

2.22. 学部所属教員（2）

2.22.1. 教員業績概要

職名：	教授	氏名：	若林 光次
-----	----	-----	-------

[教育活動]

(a) 学部担当授業科目

科学技術史

(b) 研究科担当授業科目

情報環境デザイン特論

(c) その他（教育内容・方法の工夫、作成した教材など）

該当なし

[研究活動]

(a) 著書

該当なし

(b) 学術論文

該当なし

(c) 研究発表

- 1) 山田恒夫，畑山透，佐々木貞子，村上好子，尾形優子，杉原満則，小川晃子，若林光次，原量宏，矢野喜代子，“電子母子手帳の遠野市への導入と評価”，第47回日本生体医工学会大会，FC20-3，2008年5月
- 2) 斎藤建児，田中充，佐々木淳，若林光次，小川晃子，“高齢者の能動的発信による安否確認システムの利用端末に関する評価”，日本福祉介護情報学会第9回研究大会，2008年11月
- 3) 小川晃子，田中充，佐々木淳，若林光次，斎藤建児，“電話自動応答システムを活用した予防型安否確認システムの提案”，日本福祉介護情報学会第9回研究大会，2008年11月

(d) 研究費の獲得

該当なし

(e) その他総説・解説，調査報告・市場調査，特許，受賞，報道など

該当なし

[大学運営]

(a) 全学委員会

戦略的大学連携支援事業運営委員会

(b) 学部/研究科の委員会

就職委員会，広報委員会

(c) 学生支援

該当なし

(d) その他

研究・地域連携本部副本部長

地域連携研究センター長

職務発明審査会委員

いわて高等教育コンソーシアム運営委員会，教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会委員

[社会貢献]

(a) 国や地方自治体などにおける活動

該当なし

(b) 企業・団体などにおける活動

- 1) 岩手県社会福祉協議会の ICT を活用する予防型安否確認プロジェクト「市町村社協が民間事業者の協力を得て取り組む ICT（情報通信技術）を活用する予防型見守り安否確認システム開発のための利用者調査と見守りシステムの試行的実施と検証」（厚生労働省平成 20 年度社会福祉推進事業）に参画。本プロジェクトを推進するための「ICT 活用予防型安否確認システム検討委員会」委員長
- 2) 財団法人東北産業活性化センター「東北地域サービス業のベストプラクティス集作成検討委員会」委員

(c) 一般教育

該当なし

(d) 産学連携

該当なし

(e) 学会などにおける活動

該当なし

(f) その他

該当なし

[主な業績]

ICT を活用する予防型安否確認プロジェクト

岩手県社会福祉協議会と、本学社会福祉学部（小川晃子教授）及びソフトウェア情報学部（佐々木淳准教授、田中充客員教員）との協働により、電話自動応答システムを活用して高齢者による能動的な安否発信のみならず宅配業者や地域の協力者による不定期的な見守り情報の発信をも可能とし、それらの安否情報を社会福祉協議会が統合的に管理できる高齢者安否確認システムの開発を行い、盛岡市、久慈市、二戸市浄法寺、川井村、青森県十和田市の 5 カ所の市町村社会福祉協議会で試行運用及び評価を実施してシステムの基本的な有効性を実証した。

大学運営

研究・地域連携本部副本部長兼地域連携研究センター長として、全学研究費の中間・事後評価及び採択審査、科研費等の外部研究資金への申請支援、地域企業や団体などとの共同研究等の実現に向けた支援、滝沢村が地域連携研究センターに隣接して建設した「滝沢村 IPU イノベーションセンター」に係る検討・調整等を行った。また、職務発明審査会委員として特許等の知的財産権の適正な管理に努めた。さらに、いわて 5 大学（岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学）が連携して行う戦略的大学連携支援事業「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」への対応を行った。